

曲り角にきた日本の社会保障

2013年1月25日

貝塚 啓明

1) 社会保障の元来の目標

ベバリッジ報告の意図

「すべての人々とその家族にその権利として生存可能な所得を保障すること」
保守的考え方のベバリッジとしては限界となるような発言（英国国会議事録）

チャーチルの政治的意図

労働者階級をも対ナチスの戦争に動員するためのアメ

2) 社会保険が制度の中心

失業、労災、疾病、引退後の所得低下などのリスクを社会的にプール
生活保護に落ち込まないようにする
救貧法の時代に戻らないようにする

3) 公的扶助（生活保護）をなるべく避ける

日本の厚生行政では余り重視されてこなかった
日本の現状は生活保護が急増

4) 最大の問題は、社会保険が機能しないこと

年金記録の喪失
皆保険・皆年金は実現しえない現実

5) 政策の中心は、社会保険の Compliance を高めること

納税者番号制度の確立

たとえば、10年加入・20年加入の年金の導入は行政的に不可能
今後の社会保障改革は、Compliance の改善なしには前進しない
困難な課題であり、どうするつもりか？